



写真：通信ネットワーク工学科3年 片山文弥「夕日」



- | | | | | |
|----------------------------------|-----------|--------|--------------|-------|
| 1. 工学系の文書を読む | | | 説間キャンパス情報工学科 | 奥村 紀之 |
| 2. 読書感想文等入賞結果発表 | | | | |
| 3. 講評(高松・説間) | | | | |
| 4. 入賞作品紹介 | 《高松》読書感想文 | 【優秀賞】 | 電気情報工学科3年 | 武田 慎吾 |
| | | 【優秀賞】 | 1年4組 | 久米 篤司 |
| | 千頁読破記 | 【優秀賞】 | 建設環境工学科4年 | 紙本四季子 |
| | | 【優秀賞】 | 機械電子工学科2年 | 谷川 豊章 |
| | 夏休み体験文 | 【優秀賞】 | 電気情報工学科3年 | 山田季美佳 |
| | 《説間》読書感想文 | 【最優秀賞】 | 情報工学科2年 | 安藤 翼 |
| | | 【優秀賞】 | 1年5組 | 勝田 稚菜 |
| | | 【優秀賞】 | 電子システム工学科3年 | 藤井 秀里 |
| | | 【佳作】 | 専攻科2年 | 高津 朋裕 |
| | | 【佳作】 | 情報工学科3年 | 矢野友加里 |
| 5. 教員によるエッセイ | | | 高松キャンパス一般教育科 | 市川 研 |
| 6. 教員・学生による推薦図書 全17編〈教員9編・学生8編〉 | | | | |
| 7. 上半期ランキング〈図書、CD、DVD〉 | | | | |
| 8. 図書館からのお知らせ | | | | |
| 9. 平成25年度第1回ブックハンティングについて(高松・説間) | | | | |

工学系の文書を読む

情報工学科
奥村 紀之



だいぶ涼しくなってきましたね。といっても、この原稿が皆さんの手元に届く頃には寒くなってきているのかもしれませんが・・・。

さて、図書館だよりの原稿依頼を受けて、何を書いたものかと思案していましたが、やはり工学系の学校に通っている皆さんには、工学系の文書を読むという内容で少しお話ししようかと思います。もちろん、私個人の見解なので、違う読み方があるのかもしれませんが、一例として読んでもらえればと思います。

読書というと小説や伝記など、読み物系の本を想像するでしょう。私もそういう系統の本は好きで結構読みます。しかし、工学系の文書、例えばテキストであったり論文であったり、そういった文書を読むときに、小説や伝記と同じような読み方をしている良いのでしょうか？

読み物系の本は、行間を読むという力が必要になる場合が多いです。情景描写があり、人物描写があり、それらが密接に関わってきているものの、文字として記述されていない情報を読み取ることが出来なければ、物語の真のおもしろさに辿り着けないことが多々あります。もちろん、好き勝手な想像で行間を読んでしまうと、それはそれでおもしろいかもしれませんが、筆者の真意は汲み取れません。

一方で、工学系の文書の場合はどうでしょうか？

工学系の文書に限らず、理数系の文書、ひいてはビジネスで使用される文書においても一貫して求められることは、「曖昧性があってはいけない」ということです。つまり、読

み手によって解釈の違いが生じるような状況を極限までに排除しなければいけないほど、工学系の文書は厳密性が要求されます。そのような文書の「行間を読む」ことはできるのでしょうか？その必要性はあるのでしょうか？

答えは「否」です。当然ですね。もし何かの実験をするときに、「熱してからふたをしても良いし、ふたをしてから熱しても良い」、と二通りに読めてしまうような記述があった場合、その時点で実験は破綻してしまいます。場合によっては大事故に繋がってしまいます。工学系の文書では、書いてあることがそのまま事実として適切に受け止められなければいけません。行間に含みを持たせるような記述は一切してはいけません。

このようにして記述されている工学系の文書をみなさんは正しく読むことが出来るのでしょうか。基本的には、書かれている内容をそのまま素直に受け取れば良いのですが、時として、どちらともとれないような、曖昧な記述に出会うことがあります。この場合の多くは、前後の文脈からその文章がどちらの意味合いで書かれているものを推測することが出来ます。しかし、闇雲に推測するわけにもいきません。なぜか？

筆者の主張は一つの論文、一つのテキストで一貫しています。そこに、「読者の観点」が加わってしまえば、文章の論理的構造が全て破綻します。小説や伝記などの読み物系の本では読者の観点による推測もまた筆者の意図として組み込まれている場合が多いです。おもしろく文章を読むことが出来ます。しかし、工学系の文書は、筆者の主張は筆者の主張であり、受け取る側が自由に解釈して良いものではありません。筆者が論文やテキストを通して読者に伝えようとしていることを100%正しく読み取る力が重要になります。

これから皆さんはたくさんの工学系の文書に触れることになると思います。ただ何となく雰囲気だけで文書を読むのではなく、疑問が生じたらとことん追求して、筆者の主張を100%汲み取るための読み方を身につけてもらえれば良いと思っています。

夏休み読書感想文・千頁読破記・夏休み体験文 入賞結果発表

夏休みの読書感想文・千頁読破記・夏休み体験文の入賞者の表彰式を、高松キャンパスでは10月28日(月)に、詫間キャンパスでは11月6日(水)に実施しました。



高松キャンパス表彰式



詫間キャンパス表彰式